太良公民館報

発行所
太良町公民館
電話 多良 145番
編集責任者 中村智利
印刷所 松浦印刷社

太良町の人口	
総人口	15,250人
(男)	7,475〃
(女)	7,775〃
(多良)	8,906〃
(大浦)	6,344〃
総世帯数	3,013戸
(多良)	1,766〃
(大浦)	1,247〃
(昭和42年3月1日現在)	

太良町学校給食センター落成式
同時にカレー汁の試食会

1.334人分（大浦）の給食を運ぶ運搬車

三千百五十人分の給食を賄う太良町学校給食センターの落成式は、さる二月二十五日、同センターに於て、西村町長はじめ県体育保健課給食係長、県学校給食会事務局長、音谷設計士、中島建設k社長、西部物産kk社長、日本調理機kk社長代理、並びに地元関係者多数の臨席を得て挙行された。

式は午前十一時から同センターで神事が行われた。このあと多良小学校講堂に移り落成式々典が催された。

三千百五十人分の給食を賄う大型調理場、大浦の千三百三十四人分の給食を運ぶ運搬車も購入されている。

式のあと、中原栄養士の献立による料理（カレー汁）を試食して解散した。

生徒の中には、好き嫌いがあって、たべ残す者もいる。

栄養があり、味も申し分なく、こんなおいしいごちそうを残すとはもったいない。早く給食になれなんでもたべ、毎日健康な体で楽しく勉強に、スポーツに励んでほしいと関係者は云っている。

学校給食第一日目のあじ
好評のうちにスタート

学校完全給食は、さる二月二十一日から開始された。

中原栄養士さんはじめ八人の給食婦さんたちは朝六時から、第一回目の献立（チャンポン）の料理にとりかかった。

今日のお昼から給食をいただけるとあってか児童生徒の顔はいつもより明るく、学校全体に活気が見られた。

午後十二時二十分、各クラスの当番に引渡す時間がきた。

女子生徒にまじり、頭に三角きん、かっぱう着姿の中学男子生徒が頭をかきかきあらわれた。

パン係二名、牛乳係二名、副食係二名、食器係二名、計八名が各クラスの当番人員で、だいたい一週間交替。小学校ではクラスによってことなるが、一、二年の低学年のクラスには、五、六年生が当番に当っている。

当番の者は、ミルク、パン、おかず、食器をセンターから受けとり、各クラスに持ち帰って、個人の食器につぎわける。

給食婦さんたちは、引渡しが済んでホッとしていると、「何年何組、パン二つたりません、ミルクが私のクラスに来ておりません」と当番がやってくる。給食婦さんたちは、「ちゃんと入れたつもりですが」なにしろはじめてで……とあわてる始末。

やっとそろってたべる時は、もう一時を過ぎていた。ミルクは冷え、チャンポンはのびかかる。

しかし、先生も生徒もみんな同じ給食をいただけるとあって先生のお話しもうわの空、目の前にあるごちそうが気がかりである。

給食時間に教室をのぞいてみた。六年のあるクラスの先生は、たべる前に給食のたべ方を説明されていた。

(1)にミルク、(2)にパン(3)にチャンポン、(4)にパン、(5)にミルク、(6)にパン……となかなか行き届いたご指導である。

しかし生徒の中には順序はどうでもよいとばかり、好きなチャンポンからとびつくものもいた。

大浦小学校四年のある生徒は、第一日目給食の感想を「おいしくて、つめたい完全給食」と云っていた。

給食についてある小学生徒に聞いてみた。

(問)、給食はおいしいですか。(答)、うまかった、あいどんパンと牛乳はさぶなかった。(問)、麺よどうですか。(答)、まちかったべたかった。

初日で給食婦さんたちも要領をえず、つぎわけに多少の差はあったが、小学校では、ほとんどたべ残すクラスはなかった。

中学生の方には、すききらいがあるとみえ、何組かのクラスの容器には残物があった。

しかし放課後運動している生徒たちは、もう少したべないと腹がへって運動が出来ません。と云っていた。又、すききらいのある人が、うちではたべないが、学校ではたべました……と、いかに給食がおいしいかが伺える。まず第一日目にしては、なかなかの好評でスタートしたと、関係者は喜んでいる。

各クラスの容器につぎわける給食婦さん（チャンポン）

給食について作文集

たのしいきゅうしよく

大浦小 一年　あいうらしんや

がつこうでのきゅうしよくは、おべんとうよりとってもおいしいから、きゅうしよくがながくつづくといいな。きゅうしよくがまいにちあって、とってもうれしい。やっぱりきゅうしよくっていいものだな。

学校給食が始まって

大浦小五年　山田 由美子

私たちの大浦小学校も都会の学校のようなりっぱな学校を建てゝもらいこんどはいよいよ完全給食が始まるようになった

給食の始まる前まではミルクだけでしたが、こんどはおかずもあり、パンもあります。めったに家ではたべられないものばかりですが、私の口にぴったりあうものばかりです。毎日お昼のくるのが楽しみです。

多良に給食センターの大きくてきれいな建物ができ、私たちの学校までこんなになるとは思ってもいませんでした。

私たちをじようぶな子になそうと思い、たくさんの金を出し合ってくださる町長さんや父母たちのおかげで、きっとよい子供になると思います。

それからセンターで給食を作ってくださるおばさんたちに、心からお礼を云います。私はあと一年で中学です。中学に行っても給食がたべられるのはうれしい、早く大きく、じようぶな子になろうと思います。どうぞこの給食がいつまでも続きますように……。

完全給食を祝おう

大浦小六年　田崎 みのり

私たちの完全給食が始まった。みんな嬉しい顔だ。おこっていた顔も病気がちの顔もみんな嬉しそうだ。だってきょう二月二十一日から完全給食が始まったのです。さあ完全給食を祝おう。

みんなの教室には造花や白、赤、黄、緑、紫など五色のテープがかざられている。

やがて昼食の時間になった。給食係はエプロンを着て給食を取りに行く私たちはマスクをはめ、手を洗い、席につく。さっきよりもいっそう嬉しくなった。みんなもそうだろう。やがて給食係の足音が近くなってきた。チャンポンのにおいがただよってくる。

食器がくばられ、おさらの上にパンがのる、ミルクもおかずものる。

私は待つのがいやになってきた。でもがまんがまん。おいしい給食がたべられるんだから。あゝまだかなあ、がまんがまん。おかずはチャンポンだった。チャンポンの中には、お肉、やさい、ねぎ、わあいおいしそうだ。

でもたべる前に、給食を作ってくださるおばさまにかんしやの言葉を、「ごくろうさまでした、……いただきます」

かつぱう着姿の中学男女の給食当番

お姑さんを一日温泉へ招待

針牟田婦人会

針牟田婦人会支部長（川代フサエ）さん、農協婦人部支部長（針川マサ子）さんを中心に、部落の先輩、婦人会は、部落の先輩、つまり姑さんを、嬉野温泉へ一日招待した。

同婦人会は、役場からもらう年金徴収等の手数料を毎年支部の旅行や部落公民館台所改善の費用に当てゝいたが、ある日部落集会で、誰れ云うとなく「今年は姑さんたちを一日ゆっくり温泉へでも招待しては……」との提案に、一も二もなく全員賛成した。

早速三月十二日に実施した。お姑さん三十六名婦人会員十四名はバスを貸切りで、嬉野温泉センターへ向った。

温泉センターの人たちは、この親孝行ぶりに感銘され、気持よく接待されたと云うことです。

あるお姑さんは、この日のため上等の履物を用意していながら、あまりの嬉しさに普段の庭ぞうりで行き、嬉野に着いてから気づき、大笑いになったと云う。

この雰囲気は、いかにお姑さんたちに喜ばれたかが想像される。

これも日常、部落全体又各家庭が円満なればこそ、嫁の提案も又姑さんの素直な受けかたで、こんな気持のよい行いが実を結んだのだと嬉しくなる。これは子供の教育の一端、家庭教育、つまり親孝行であり、子供から見る立派な親の姿でもあろう。

お姑さんたちは数日たった今日でも、うれしかったあの日の感激が忘れられないでおられると云うことです。（係）

先生と一諸においしい給食をいただく生徒たち

町、県外就職者の壮行会

……実社会にとびこむ八九名 上を向いて、胸をはり堂々と……

町、県外就職者壮行会は、さる三月十日午前十時から、多良公民館において来賓多数のご臨席をえて行われた。

今年度卒業生四二九名のうち八九名が町、県外へ就職する。

西村町長はじめ原田議長、鹿島職業安定所長、福祉事務所長、中島校長先生から、お祝い、励まし、注意等があった。

これに対し、就職者八九名を代表し、後藤美智子さん（大浦中）が「私たちは、東京、大阪、愛知、三重県へそれぞれ別れて行きますが、来賓の励ましのことば、私たちを思う親心で、親切なご注意、ただ感激でいっぱいです。この感激を胸にだき、太良町出身であることを誇りと勇気をもち先輩や他県の人に負けないよう、がんばります」と、お礼と誓いのことばをのべた。

町から記念品にボールペンが贈られ、中食には来賓と一諸に饅頭と牛乳をいただいて解散した。

若い君たちに期待

六〇名の町後継者を町民こぞって激励

中卒町後継者激励会は三月十日午後一時三十分から多良公民館で、町長町議会議員はじめ、町内の機関団体並びに町後継者父兄の出席のもとに開かれた。

西村町長、原田議長、教育委員長、中島校長から激励のことばがあり、町長は「皆さんは、若々しい町の建設者として、大きな期待がかけられています。進学する人や町県外に就職する人たちに負けないよう誇りと勇気をもってがんばってください」と激励された。

町後継者六〇名を代表して、三原かず子さん（多良中）が「私たちは、太良町発展のためにがんばります」と力強くのべた。

最後に参列者全員で、多良、大浦中学校の校歌を力強く斉唱して、主催者が用意した、記念品（ボールペン）と饅頭をもらって閉会した。

閉会後、中村公民館長から青年学級開催のおしらせと、青年学級内容について、普及所の百崎先生から説明があった。

町後継者を代表して答辞をのべる三原かず子さん

二つの道路改良工事が完成

（伊福小浦線）

伊福小浦線（旧分校前道路）は、先に一部改修を終り、農道との取り付け部分が狭く、交通に不便をかけていたが工事費五七七千円、延長六六、五米、巾員四米に改良した。

今後は、同地区及び湯牟田地区の産業に、大きく寄与するものと思う。

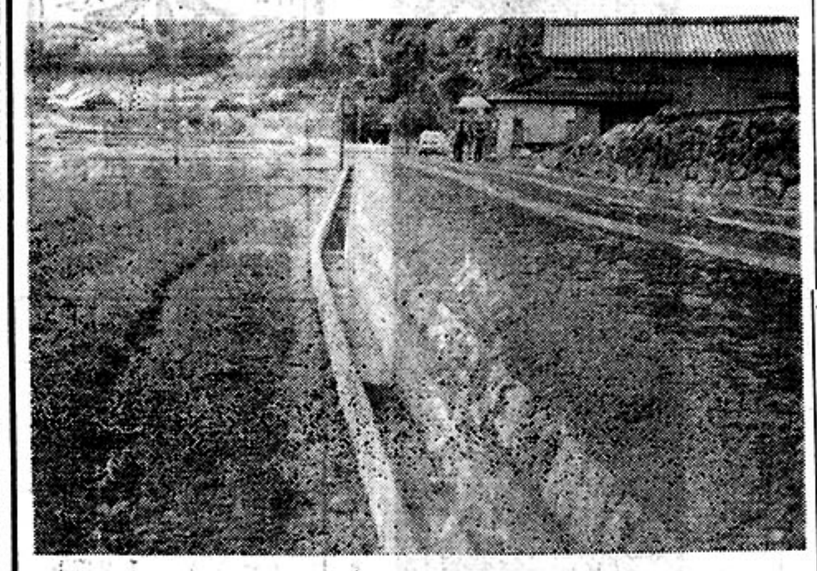
請負者　山口和男組。

（糸岐板の坂線）

糸岐板の坂線は、亀崎から風配地区へ通ずる最短距離の道路であるが、狭隘なため今回、町単工事として、一、三二五千円の費用をかけ、延長二九五米、巾員四、五米の立派な道路に改良された。

請負者　副島建設。

（建設課）



改良された糸岐板の坂線

農休日に道路の整備

―川下勝さん土地を無償で提供―

時代の進歩に伴い、道路整備促進と車輛の増加は、一見して都会を想わせるほどになった。

このめまぐるしい世相の中に交通事故の悲報にはお互いが寒心に堪えないものです。

町道大峰線と云えばカーブが多く又視界が悪いので、町当局にお願いして逐次修正している現状です。

つい先ごろ、同部落の川下勝氏から、「潰地は無償で結構ですから、このカーブも……」と心温まる申し出に、早速建設課に相談し、ダンプ車の協力を得た。

二月五日の定例農休日を利用し部落総出動での奉仕、あいにく昼ごろから雨が降り出したが、昼食抜きでがんばり、三時ごろまで無我無中で道路整備にあたった。

部落公民館では、ご婦人たちが、空腹で帰えってくるのを手料理を作って待っていた。

心づくしの料理をつつきながら、社会奉仕が出来、泥汗で汚れた顔をほころばせ皆んなご満悦。

みかんブームの今日、一坪でも貴重な土地を自発的の申し出で、危険なカーブの一角が消えたことは、川下勝氏の社会道徳に生きる奉仕観念に感謝のほかならず、部落の当事者として誠に美望に堪えず書面の一端をかりた次第であります。

大峰　大岡藤吉

「詩」しんぶんはいたつ

多良小四年　杉本洋子

しんぶんはいたつ、つらいだろうな
あさ早くおきて、一けん一けんまわる
多くのしんぶんをもっている、おもいだろうな
でもくじけないでやっている
雨の日だって風の日だって、えらいなあ
わたしにはとってもまねができないと思った。

☆★☆

新入学児の健康としつけ

―安全な道路の歩き方など―

太良町内でことし新しく一年生として入学する児童数は多良一四四名、大浦一四三名、計二八七名です。

これらの新入学児童は一年生となる大きな喜びがあるとともに遊び本位だったこれまでの生活から学校という新しい生活に入るわけです。

つまりこどもにとっては、大きな生活の転換になるわけですから、とくに入学前の健康としつけについては、次の点に注意したいものです。

㈠、健康は学校生活で一番大切なことです。入学前には一応健康診断が行われますが、これまでの結果をみますと、虫歯、へんとうせん肥大、皮ふ病、アデノイド、トラコーマ、結膜炎など多いようです。このような病気があると、入学早々から何かと病気にさまたげられて、大切な時期の勉強がおろそかになりますので、入学前に治療しておくことが大切です。

㈡、入学すると急に多くの人と接するため、いろいろな伝染病にかかりやすくなります。そこでジフテリアや百日せきなどの予防接種をすませておく。

㈢、交通事故防止の指導をする。交通事故は子どもにとっては一番恐しいものです。この事故を防ぐために、家から学校までの安全な道路の歩き方や信号の見かたなどを子どもと一諸に何回も歩いて教えておくことが大切です。

㈣、大小便の習慣をつけることです。家にいた時と違って環境が変わると先生にも云えず、またほかのことに夢中になってついそそうをする場合が多いものです。このため朝夕一定の時間にすませる習慣をつけさせることです。

㈤、学校は集団生活ですので、自分の身のまわりのことは自分でできるように、洗面や歯みがき、食事前や便所にいったあとの手洗い、着替えなど出来るように、正しい生活の習慣をつけておくことです。

このほか自分の名前は続み書きできるようにしておきたいものです。

老人クラブの遠足

―楽しみは自分たちで―

中畑老人クラブ

中畑老人クラブ会員安西松吉会長外十二名は、さる二月十九日早春のうらゝかな日を浴びて、多良岳山麓のハイキングを実施した。変り行く郷土の姿を見物して歩こうと云うのが目的である。

朝九時公民館に集まった。男八名、女五名、会員の顔はまるで小学生の遠足の時と同様です。

気の合った者同志の集いの楽しさは、年寄りには又格別なものです。

二十分も歩けば返塔道にかかります。ここは私達の冬の仕事場でした。

弁当を腰に毎日山切りに通った道は既になく、三間巾の砂利を敷きつめた立派な自動車道路が出来ている。高いと思った返塔岳も殆んど頂上まで開墾されていた。

目下に里、野上、中畑平野を、東に有明海の彼方に大牟田がかすんでみえる。南は竹崎のむこうに雲仙岳がくっきりと浮んでいる。眺望がよく気も朗らかになる。

黒金、大町をすぎ船倉を通るころはさすが疲れぎみでしたが、急ぐ旅ではなし、充分休憩をとって元牧場あとから騎士園に向いました。鉄筋三階建の立派な建物がこの山奥に立並ぶ威容をながめ何故か不思議な感にうたれました。こゝで手作りの弁当を開き、互いにつまみ合いながら楽しいひとときを過した。

二八五キロもある種豚のいる養豚場の見学を最後に、午後四時、小長井駅に到着した。

私たち老人クラブ会員には強行軍でしたが、楽しい一日でした。

今日の見物で一番感じたことは、静かな小長井村にくらべて、大浦の変化の激しさと云うことでした。又、私たちが話し合ったことは、年寄りだからと、若い人から同情されるむきがあるが、決してそれにあまえてはいけない、楽しみは私たち自身で積極的に作り出して行こうと云うことです

まず四月には、観音さんの庭で総会を開き、花見の宴を催すことを決め解散した。（一会員）

青少年に愛の一声!!

「愛の呼びかけ」運動実施

県では、「愛の呼びかけ」運動を昨年十二月から行われています。

この運動は、明日の世代をになう青少年に対して、すべての人がいつでもどこでも、やさしく愛の声をかけ、社会全体の責任として青少年を育てていこうというものです

この「愛の呼びかけ」として、青少年育成県民会議では、とくに次のことを運動目標としています。

一、毎日のあいさつをかわすことによって、青少年を励ましましょう。

二、良い行いをしたときは、その善意が育つようにその場でひとことほめたたえて、より健やかに育てましょう。

三、もし良くない行いをしたときは、その場でひとこと注意を与え反省を促しましょう。

各家庭はもちろんのこと学校や職場、地域社会青少年を育成する諸団体など、この「愛の呼びかけ」運動を機会に、今後はさらに青少年の健全育成と保護育成につくしていきたいものです。

風配線にスクールバスを!!

大町　原口定

祐徳バス風配線の運転は、現在午前九時三十分と午後三時四十分（大浦駅前発）とわずか朝夕二回運転されている。又、現在のダイヤでは利用度が極めて少ない。

これを小学校生徒の登下校時に利用出来るようダイヤの改正を町当局から、バス会社へ運動くださるようお願いします。

（その理由は）

一、風配沿線は、現在開拓パイロット事業としてみかん園開発が急ピッチに実施され、各種自動車は激増し、児童生徒の歩行は危険である。

二、風配沿線の部落は極めて遠隔の辺地が多く、学校までの距離は五、六キロが大部分である。低学年児童の歩行通学は体力的にも無理であり、時間的にも余裕がなく学力の低下は免れない、これは同地域居住者の苦脳の種である。この就学児童を持つ親の苦脳を除去することは教育の地域格差を是正し、ひいては地域開発の面に於ても一大貢献をなすものと思う。

三、現在運行されているのは、大浦駅前から広谷入口までゞ、先端約一キロは運行されていない。

この先を運行していただけば先の部落居住者もバスの利用が出来ることになる。

地域住民は以上のことを熱望しながら、毎日苦脳の日々を送っている。

町長はじめ、教育指導者方々へ善処をお願いいたします。

又、町民皆さんからも批評をいただきたい。